

2009春闘中央討論集会開催

12月12～13日、東京・プラザエフ～自治労会館において「緊急第7回地方代表者会議」・「09春闘中央討論集会」を開催し、全国から約90名が参加した。

2009年1月1日自治労との完全統合を間近に控える中、12日の緊急第7回地方代表者会議では、統合にむけたこれまでの協議内容を報告するとともに、完全統合にむけ全体で意思統一をおこなった。引き続き、今年の春闘にむけ活発な議論がされた。



春闘討論集会は、亀崎事務局長から09春闘方針草案の提案と、三木副議長から09春闘調査の中間報告がされた。

二日目は前日の提案を受け、会場からは労働法制、平和問題、自治労との共同行動の問題などの取り組みに対する意見、また調整すべき具体的な課題や、問題点について質問がされるなど活発な全体討論となった。

また、大阪、石川、徳島から組織拡大の取り組み報告がされた。

続いて田島特別幹事より「労働相談・組織化と非正規雇用労働者への取り組み」をテーマに講演。雇用の多様化とともに間接雇用が広がり、今、非正規問題、とくに派遣や請負の現場にある、偽装や違法が罷り通っている職場で何がおきているのか。また、これまでの労働法制を分かりやすく説明するとともに、今、労働者に出来ること、労働運動の原点を活かし運動を広げていくことが重要であることを述べた。



続いて高原副議長より「自治労との統合下でいかに合同労組運動を継承・発展させるか」をテーマに講演。これまでの全国一般運動の歴史と合同労組運動の意義を述べるとともに、自治労との統合にいたった経緯と、今後自治労との完全統合下において、合同労組運動の意味をあらためて確認すると同時にこれまで培った全国一般運動を自治労の中で実践していこうと語った。

最後に全体で、合同労組運動の前進、中小労働運動の灯を消さない地域運動強化をめざすこと、目前の具体論だけに視野を狭めることなく、共に闘える仲間、運動の拡大を目指そうと意思統一をし、集会を終えた。